

あったから!! 不良を て販売したのか



ドゥカティジャパンとの調停協議が続いているため、傷ついたバイクは証拠としてガレージで眠る。

メーカー側は販売開始時にパーツのトラブルを知りながら口止めした疑い

「バイク雑誌やテレビをはじめ、これまで様々なマスコミに取り上げてほしいとお願いしてきたのです

が、どのマスコミも取り上げてもらえませんでした。もしかすると500万円もするオートバイの事件なんて誰も興味をもたないのかもしれない。しかし、この事件の問題点は価格ではないはず。そもそも販売元であるドゥカティジャパンがパーツの不良を知っていたらオートバイを販売し、その対応が後手に回ったということが問題だと思っています。しかも証拠を隠蔽したり、発言を覆したりとても誠意のある対応とは思えないのです。大メーカーに対してこちらは一個人と大変不利な状況ですが、私が大好きだったドゥカティは、本当のことを社会に対して話してほしいと思っています。」とある日、このような信じがたい内容の電話が編集部にかかってきた。早速、電話の主と会った。

編集部に連絡してくれたのは東京都在住の長田哲次さん。バイクに十数台乗り継いできたライダーだ。以前所有したドゥカティでサーキット走行会にも参加するほどで、運転スキルも高く、とても公道で暴走行為をする人には見えない印象だ。そんな長田さんは今から4年前の平成20年4月に発売当初からトラブルを抱えていたと疑われるドゥカティ1098Rをドゥカティ横浜で契約し、6月14日に納車された。しかし納車されて3〜4km走ると、いきなりメーターパネル内の橙色のバイロットランプ（エンジン診断エラー）が点灯。その後点灯と消灯を繰り返したのだ。何とかディーラーに到着。トラブルの原因を調査してもらっても

の、40〜50分かけて調べても、結局原因不明のまま。その後エンジンが再始動したので、家路に着いた。しかしその途中で再びバイロットランプが点灯、消灯を繰り返し最後はLLC液を噴出し停止。走行不能に陥った。ふたたびディーラーに連絡し、トラックで引取に来ることとなった。

購入したドゥカティ横浜でDDS（ドゥカティ・ダイアグノシス・システム）を接続して調査すると、ヒュースBOX裏側の配線メケが原因と判明した（当日は晴れで気温高めで走行中水温が上昇し、電動ファンで冷却しようとしたが、配線抜けで冷却できず、警告灯が点灯したと判明）。ほかにもチェックするため、ディーラーにバイクを預けた。そして平成20年7月19日がやってくる。長田さんはお気に入りのコースの伊豆スカイラインまでツーリングに出掛けようとした。しかし、藤沢警察署付近を走行中、突然原因不明のエンジンストップに襲われる。イグニッションキーを回しても全くエンジンがかからないため、24時間対応のドゥカティアシスタンスに連絡し、バイクのピックアップを頼んだ。一時間ほど到着するというところで現場で待っていたが、約20〜30後にエンジンを再始動させたところ、始動し警告灯なども点灯しなかったため、ドゥカティアシスタンスにキャンセルを申し出て箱根へ向かった。長田さんはいま思えばここでやめておけ



長田哲次さん

今回バイクのトラブルが要因と疑われる転倒で大けがを負った。



長田さんの転倒のきっかけであり、そしてその後リコールの対象となった問題のボルテージレギュレーター（写真中心）。

ばよかったというが、やっと手にしたバイクに乗りたという衝動には誰もが負けてしまうだろう。トラブルも出ず、伊豆スカイライン亀石インターに到着。そこでドゥカティ横浜に連絡し、販売店スタッフの四方氏にトラブルの状況を伝えて修理に向かうことを連絡し、帰路に着いた。そして伊豆スカイラインを法定速度で走行中、突然、原因不明のエンジンストップが発生。さらにメーターパネル内のインジケーターが全点灯し、制御不能に陥った。その状況を長田さんは「突然リアタイヤがロックし、前方に飛ばされました。」といまでもはつきりと覚えていた。

私が転倒し、大けがを負ったのは もともとバイクに欠陥が ドゥカティはパー

イタリアの
名門ブランド

知っ

連絡先 自動車交通技術安全部審査課
リコール対策室
TEL 03-6253-8111 内線 4253
アドレス: <http://www.mlit.go.jp>

リコール届一覧表

リコール届出日: 平成 21 年 1 月 30 日

リコール届出番号	外-1548	リコール開始日	平成 21 年 1 月 31 日
届出者の氏名又は名称	ドゥカティジャパン株式会社 代表取締役 ボルティガ ミルコ	製作国 : イタリア 製作者名: DUCATI MOTOR HOLDING SpA 問合せ先: ドゥカティジャパン株式会社 アフターサービス部 03-6794-9003	
不具合の部位 (部品名)	電気装置 (ボルテージレギュレータ)		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	ボルテージレギュレータ (電圧調整器) の過熱が不十分のため、熱影響によりボルテージレギュレータの性能が低下するものがある。そのため、バッテリーに充電されなくなったり、最悪の場合、走行中電動機が停止し、再始動できないおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、バッテリーブラケットを対象品と交換するとともに、ボルテージレギュレータを点検し、対策が必要となるものはボルテージレギュレータを良品と交換する。		
不具合件数	156 件	事故の有無	0 件
発見の動機	市場からの報告による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者へ周知させるための措置	・ 使用者: ダイレクトメールにて通知する。 ・ 自動車分解整備事業者: 日整連発行の機関紙に掲載する。 ・ 改善実施済車: フレームヘッド左側に 外-1548 のステッカーを貼付する。		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号 (シリアル番号) の範囲及び輸入期間	リコール対象車の台数	備考
ドゥカティ	ZDM1700AA7B	1098	ZDM1700AA7B002156~ZDM1700AA7B014706 平成 19 年 2 月 1 日~平成 20 年 2 月 1 日	259 台	
	ZDM1700AASB	1098	ZDM1700AASB015108~ZDM1700AASB020087 平成 20 年 2 月 21 日~平成 20 年 8 月 1 日	136 台	
	ZDM1700AA7B	1098S	ZDM1700AA7B001844~ZDM1700AA7B014550 平成 19 年 2 月 1 日~平成 20 年 2 月 28 日	539 台	
	ZDM1700AASB	1098S	ZDM1700AASB015176~ZDM1700AASB020231 平成 20 年 2 月 21 日~平成 20 年 8 月 1 日	141 台	
	ZDM1702AB7B	1098R	ZDM1702AB7B015046~ZDM1702AB7B015048 平成 20 年 3 月 6 日~平成 20 年 3 月 21 日	3 台	
	ZDM1702AB8B	1098R	ZDM1702AB8B015051~ZDM1702AB8B015024 平成 19 年 2 月 1 日~平成 20 年 8 月 1 日	43 台	
	(計 4 型式)	(計 3 車種)	(輸入期間の全体の範囲)	(計 1121 台)	
			平成 19 年 2 月 1 日~平成 20 年 8 月 1 日		

(注) リコール対象車の車台番号の範囲には、対象とならない車両も含まれている場合があります。



ドゥカティのHPにあるリコール情報にも掲載されている長田さんが購入した1098Rのリコール情報。事故の有無が0件となっているが、本当は1件は起きているはず。

傷ついたバイクを見ながら長田さんは体も傷ついて、なおこんなに苦しい思いをするのかと嘆いた。



サーキット走行会に参加するほどの愛好者で決して暴走行為はしない。



ツインリンクもてぎで当時のドゥカティジャパンの社長とツーショット写真。



梱包が外され、納車されたバイクに初めて跨がる長田さん。この直後からトラブルが出た。



平成20年6月14日にドゥカティ横浜で納車日の記念写真。バイクは梱包されたまま。

賠償が目的ではないです
原因究明してほしいだけ

長田さんは転倒による負傷で、入院生活を余儀なくされた。入院直後にドゥカティ横浜に連絡すると「時間がかかるかもしれないが、事故現場も自分で向向き、責任をもってメーカーに原因調査させます」と言ったと話す。実は長田さんは購入する際に、口頭ではあったのだが、1098Rを含む1098モデルが深刻なトラブルを抱えていることを販売店スタッフから聞いていた。それは1098モデルにフルモデルチェンジしたとたん、納車する予定のバイクが当日になって突然バッテリーが上がっているという事例が頻繁に起こるようになったというのだ。そこで、原因と思われるパーツであるボルテージレギュレータを旧型の999用のパーツに交換して出荷しなさい。交換すれば問題ないとメーカー

1から指示が出ていたという。しかも09年の1月にはリコールが申請されますとも言っていたのだ。しかしこの1098のトラブルに関するこのことは実はドゥカティ側は1098モデルのボルテージレギュレーターの不良を知っておきながらそれをユーザーに隠して販売していた。と疑われてもおかしくない。さらに現在では否認されているが、当時はそのような書面がドゥカティジャパンから各販売店へ回っていて、長田さんはその書面を見たとも話してくれた。そして、事故から半年後、長田さんの1098Rを含めた1098モデルのボルテージレギュレータはリコールが届けられている。これに先だって北米では2008年12月にリコールが届けられているのだ。

ドゥカティの隠蔽工作は書面だけに留まらず、長田さんの傷ついたバイクを回収後、長田さんに何の連絡も取らず、事故の原因となったパーツを勝手に交換し、挙げ句の果てには紛失という対応にはただ呆れるばかり。しかも以前、話したことを撤回するなど、ユーザーの信頼を損なうことばかりなのだ。長田さんはメーカーに対して事故原因の解明、メーカーの今後の対処及び、安全性の考え方、再発の防止を要望した。そしてドゥカティジャパンが制作した調査報告書が送られてきた。今回の転倒はエンジンストップに起因する決定的事実を確認できなかったものの、エンジンストップが起こらなかったとも否定できない。とまとめられており、誠意を感じない長田さんはメーカーとの調停に突入した。